
ディア マイ・・・

totu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ディア マイ・・・

【Nコード】

N0603B

【作者名】

totu

【あらすじ】

父親のような、恋人のような、友達のような・・・。亡くしてしまった大切な人との思い出を、主人公が回想しながら語ってゆく物語。

ブローグ

「頑張ればできるだなんて思っ
てないよ。」

「じゃあどうしてがんばるの？」

「頑張るのが好きだからだよ。」

「ふーん・・・。」

「風香は頑張るの嫌いか？」

「別に。好きでも嫌いでもない。」

「そうか。」

そういつて微笑んだおじさんの笑顔を思い出していた。

おじさんはいつてしまった。

遠い遠い場所へ。

葬式にはでなかった。

だって私は親戚でもなんでもないから。

わたしはただの・・・。

「私パパ嫌い。」

「そうか。」

「だっていつもいつもママのこといじめるんだもん。」

「そうか。」

「おじさんがパパだったらよかったのに。」

「本当にそう思うか？」

「・・・思わない。」

「どうして。」

「だっておじさんかっこよくないもん。」

おじさんは愉快そうに笑った。

おじさん。

風香は20歳になったよ。

彼もできたよ。

おじさんに似てて、パパとは正反対。

つまりあんまりかっこよくないんだ。

私ママと違って面食いじゃないみたい。

でも、おじさんに似てて、とっても優しくて、楽しくて、温かいんだよ。

おじさん。

風香は今幸せだよ。

それはあの時おじさんが、ああしてくれたからなんだよ。

だからもう絶対に謝らないで。

絶対に。

おじさん。

線香もあげずにごめんね。

もうあの街には帰りたくないんだ。

だけどおじさんのこと一番好きなのは私なんだからね。

わかってくれるでしょう？

おじさん。

きつとどこかで聞いてると思うから一度だけこう呼ばせて。

「おとうさん。」

ポツリとそういった途端、堪えていたものが溢れ出してきた。

私は号泣した。

道の真ん中で人目も気にせずにしゃくりあげていた。

おじさん、悲しいよ。

いけないで。。。

気の済むまで泣くと、私は拓斗のアパートに向かっていた。

アパートに着くと、拓斗は一人で酒盛りしていたようだった。

拓斗は私の泣きはらした目を見て少し驚いていたようだった。

だけど私を部屋に入れると、何にも聞かずに缶ビールを1本手渡し
てくれた。

こうゆうところがおじさんに似てるのだ。

私は、ビールを半分ほど飲むと、拓斗におじさんのことを少しずつ
話し始めた。

今日まで隠していたこともすべて。

私の話を聞き終わっても、拓斗は私を抱いてくれるだろうか。

そんな思いを抱えながら。。。

ブログ（後書き）

読んでくださってありがとうございます。まだブログなので、
？なところもあったと思います。がまだまだこれからも続けて行く予定なのでよろしく願います。。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0603b/>

ディア マイ・・・

2011年1月28日04時16分発行